

## 年頭のごあいさつ

社団法人北海道林産技術普及協会  
会長 竹内久彌



平成8年の年頭にあたって、会員の皆様に心から新年のお慶びを申し上げます。

ここ4年ほど続いている景気の低迷に加えて、阪神大震災やオウム真理教の事件など、昨年は何にかと不快指数の高い年でありましたが、今年こそは明るい日ざしに恵まれ、生き生きとした良い年になりますよう皆様ともども祈念いたします。

さて、私どもの木材業界も、ここ数年の慢性的不況に加えて、昨年は超円高の影響をモロに被り、住宅着工数は、低金利などの優遇施策にもかかわらず、昨年8月末の統計では前年比17.8%のダウンでした。家具の需要も大幅に減退しており、針葉樹業界、広葉樹業界の両方とも極めて苦しい状況を余儀なくされており、今、木材産業は不況のどん底にあるという実感であります。さらにこれに追い討ちをかけるように、輸入材の攻勢は住宅の内部にまで及んでおり、海外加工製品は今後ますます増加するものと予測されます。

このような現状を踏まえて、近く北海道では**北海道木材産業ビジョン**が示されるようですが、苦境の木材産業に明るい希望の光りとなるものであることを期待いたします。このビジョンがどのように描かれるものであれ、新規の需要開拓が木材産業のサバイバルと発展の鍵となることは間違いありません。

私は学童や幼児に「木の温もり」を感じてもらうことが、人間らしい公正な人格を育み、将来温もりのある美しい社会を形成するのに、非常に重要な役割を果たすと信じております。そこで、学校を始めとする公共の建築物や机や椅子といった各種の用具に、可能な限り木を使ってもらいたいと思っております。また、子どもたちに新しい喜びを与える新しい木製遊具の開発が必要で、これらを全国の幼稚園、保育所などに広く普及するように事業を展開することも必要でしょう。このような新しい領域への事業の展開は木材産業が今後も維持発展していくためには是非とも必要なことであります。

公園施設やエクステリアにも木材はもっともっと使われるべきであります。木で作られたインフラストラクチャーはエネルギーの過剰消費を抑制し、人々に和やかさを伝え、自然とのつながりを教えてくれます。このような社会が私たちが期待する未来社会なのではないでしょうか。

私たちが選択すべき未来社会は木材が大きな役割を果たす「居ごこちの良い社会」であるべきであります。「高齢化社会」にも木材の「優しさ」が欲しいものです。人びとはバブル崩壊に至る半世紀の高度成長時代に、成長を急ぐあまり、天然素材を捨てて無機質な物質に換えて来た経緯がありますが、捨てられたもののうち、いくつかは成熟化した新しい社会にジャストフィットする商品になり得るものだと思います。もちろん何を選択し、どのように新時代にフィットさせるかは、やはり科学技術の役割であります。私どもはこれからも北海道立林産試験場との連携を強化しつつ、木材産業の発展成長のために努力して参りたいと思っております。